

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 11 No 09

122号

平成15年 9月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

大成功！日本外来小児科学会 院長

今月は、おかしな書き出しで始まります。先月、目を赤くしているのに気付いたお母さんも多かったと思います。実は、この1ヶ月で4回も結膜出血を起こしてしまったのです。眼科では加齢の要素があるかもしれないとか、友人の内科の医師には年寄りには皆おきているなどといわれ、がっかりしていました。でも本当（自分で思っているだけかもしれませんが）は、とても忙しかったことが原因なのです。

来院した皆さんが待合室の患者さんの少なさに驚いたぐらい、診療には余裕がありました。でも待っていても、先生がなかなか来てくれないと不満を持ったかもしれません。では、何が忙しかったのでしょうか。

実は8月30日～31日に仙台で、日本外来小児科学会という大きな学会が開催されたのです。今回は宮城野区の永井小児科の永井幸夫先生が会長を務められ、自分も総務という重要なポジションを任されました。このような大きな学会ともなると、準備には1年以上のかかるものです。仲間内でもインターネットの川村と評価されています。会長もすっかりその気になっていたことと、でしゃばりの性格が災いして、新しい方法としてインターネットを有効に利用することになりました。まずは、ホームページ（HP）からです。期待されているという思いから自分のHPよりも凝りしかありませんでした。見た目のインパクトだけでなくJavaなる仕掛けも凝らしてHPを作りはじめました。もう一つ、昨年までこの学会では演題（発表）の募集を葉書で行っていました。しかし、他の大きな学会はIT化されていること、自分が担当するという自負で、困難（？）を承知で募集にもはじめてHPを使うことにしました。所詮素人には、苦難の道であったことは言うまでもありません。次は、発表です。発表は40分の講演となり、『小児科における育児支援-理念をカタチにするためには-』の題で準備に取り掛かりました。また、欲張りな性格（何度も出てくると悪い性格のように思えるかもしれません）から、地元として別にできることがないかと考えました。そこで取りかかったのが「クリニック紹介」という展示でした。展示も、ただ紙貼るだけなら誰にでもできる、自分にしか出来ないことをやろう決めました。パソコンの川村（また言ってしまうましたが）なので、今まで例のないDVDを使用した展示と決めました。発表と展示は、今流行りのコラボレーションなのです。この発表と展示の準備と学会の総務との仕事の板挟みにあって、血圧も上がりっぱなし、パソ

コンのモニターを見つめすぎたことが重なって結膜出血の原因となった次第です。

さて学会の方はというと、結果的に大成功でした。最も心配したのは、参加者の数です。取らぬたぬきの皮算用で予算を計画していたため、参加者が少なければ皆で持ち出しを覚悟していました。ところが会長以下皆の努力が実って、参加者も1500人を超える大盛況うちに終わることができました。この学会はクリニックのスタッフも全員参加して手伝ってくれました。この手伝いを通して、かわむらこどもクリニックのチームワークの良さを、多くの人たちに見せることが出来たのも大きな収穫でした。解散の時、手伝ってくれた多くの先生方やスタッフのうるうるする姿を見て、会長と陰で泣きあいました。本当に久しぶりの大きな感動を得ることが出来ました。多くの人たちに支えられ、本当に大きな仕事がまた一つ出来ました。今年が当院開業10年目です。10年目の区切りとして、とても大きな思い出となりました。

診察室になかなか現れない院長にいらいらした患者さん、突然の休診で戸惑われた皆さんには、御迷惑をおかけしました。実は、このような理由があったのです。この大きな学会の成功に免じて、お許し下さい。また、講演や展示の発表には、当院を支えている多くの方々の声やメールを利用させていただきました。最近講演の依頼や取材も増え、その度ごとにかかりつけ患者さんの当院への思いの強さを感じられます。多くの患者さんに支えられていることを、改めてまた感じました。本当に皆様のお陰で、大きなことを成し遂げさせていただきました。ありがとうございました。

もう一つだけ、特別に書いておきたいことがあります。当院では学生実習を受け入れています。当院での理念に基づいた様々な活動や患者さんの声を、次の世代に伝えていくことが目的です。栃木県の自治医大から実習のためわざわざ来てくれた学生さんが、この学会にも来てくれたのです。学生実習の受け入れが、充分効果を挙げていることを実感しました。

この学会の成功という大きな経験を生かして、スタッフ一同今後とも「お母さんの不安・心配の解消」の理念に向かって努力を続けたいと思っています。



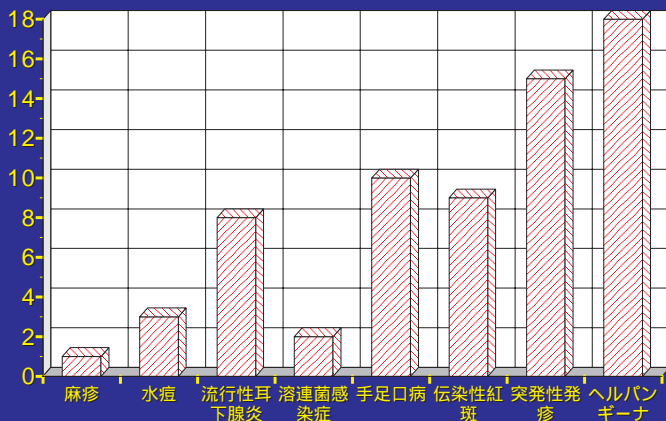
読者の広場

先月は、メールがやや少なく18通でした。幾つか、紹介したいと思います。

まずは、里帰りの時受診した松戸市の王尾さんからです。「かわむら先生こんにちは。千葉県松戸市に住んでいる王尾と申します。どうしてもお礼を言いたくてメールをさせていただきました。突然のメールお許しください。このたびは実家に里帰りしている際に、二人の子供を診察していただきました。帰省の最初の7月末に4歳の啓吾、8月の初めに6歳の晴香をみていただきました。二人とも丸4日間38度から熱が下がりませんでした。5日目にはすっかり良くなりました。私も幼少の頃は、川村内科小児科で診察していただいていたのですが自分自身の子育ては全く知らない土地で始めましたので安心して子供を見ていただける小児科を探すには時間もかかりましたし、大変苦労しました。でも、仙台の実家の近くには、かわむら先生がいらっしゃるというだけでとてもラッキーな気がします。(普段通える方が羨ましい気もしますが・・・)特に子供は、旅行に出たりすると調子を崩したりしやすいのですが、先生のお蔭でこれからも、仙台の実家には安心して里帰りをすることができます。本当にありがとうございました!」。「普段通える方が羨ましい」とは、本当に有り難いお褒めの言葉です。安心して帰ってきて下さい。次は、先月の投書の受付のノートの件への意見で、大和町の櫻井さんからいただきました。「いつもお世話様です。大和町の櫻井です。ヒデが2,3日夜だけ37.8~38.1度の熱が出ています。本人は至って元気はあり、食欲はそこそこあります。様子見ててもいいのでしょうか?ご意見聞かせて下さい。よろしく願います。ところで、最近受付方法が変わりましたよね。新聞でも拝見しましたが、私の意見と言うか考えは、混雑しているのは当たり前?と思っています。先生や看護婦さんが居る安心感もありますし、どんなに待っても診て貰って不安を安心に変えて帰れるとも思っています。皆さん私と同じ考えではないでしょうか、今の方法でやる事には反対ではありません。これからも病院の利用者として協力?をしていきたいと思っています。よろしく願います。」。これも有り難い御意見です。安心をもって帰る、本当に大事なことだと思います。開業したての頃、「薬は他の病院と同じだけど、袋の中に安心が入っている」と、言っていたことを思い出しました。他にも、アメリカに転勤になった黒沢さん、転勤になる原嶋さんから、気持ちのこもったメールを頂きました。紙面の都合で、御紹介できないのが残念です。他の皆さんも、ありがとうございました。



8月の感染症の集計



今年の夏は、さっぱり夏らしくありませんでした。手足口病やヘルパンギーナが多少流行しましたが、多くはありません。水痘、おたふく、溶連菌感染症などは、めっきり少なくなりました。麻疹が1例ありましたが、その後の広がりには防げたようです。

お母さんクラブの御案内

9月9日は救急の日です。今年も好評の「あなたは大丈夫? 救急蘇生」を消防署の御協力により開催します。蘇生体験もできます。詳しくは受付まで。

9月のお知らせ

・栄養育児相談
毎週水様 13:30~ 栄養士担当
・お母さんクラブ
9月11日(木) 14:00~
あなたは大丈夫 救急蘇生
福沢市民センター



ポリオ予防接種のお知らせ

今月はポリオの接種があります。年に

2回ですので、該当する方は忘れずに受けるようにして下さい。住所が表に無い方はスタッフまで。詳しい表をお渡ししています。対象者は次の通りです。

- 第1回 平成15年1月1日~6月30日生れの児
- 第2回 平成15年4~5月に1回目の投与を受けた児
- その他 投与を延期していた90ヶ月までの児

院長は、10月16日(木)青葉区保健福祉センターが、接種担当ですが、成人のみの担当です。昭和50~52年のお母さん方には、再度接種することをお勧めします。

コンサートの御案内

宮城県立こども病院

開院記念チャリティガラコンサート

日時:10月2日(木) 18:30開場

場所:宮城県民会館

こども病院の開院に合わせて、チャリティガラコンサートが開かれます。佐藤宗幸さんを司会に迎え、仙台フィルと4名のソリストを迎え開催いたします。詳細はポスター、チラシをご覧ください。

このような豪華な顔ぶれのコンサートは、めったにありません。チケット御購入希望の方は、受付まで。

編集後記

診療が暇でも、忙しい夏。やっと終わりました。少しのんびりできるというなと思っています。でも楽しませてくれない神様がいます。仕事の予定ははずっとつまっています。妖怪人間ではありませんが、「早く楽になりた~い」という心境です。

